

長野県民文化会館 ウィーン楽友協会姉妹提携事業

長野フィルハーモニー管弦楽団

NAGANO PHILHARMONIC ORCHESTRA

演奏会

ウェーバー：歌劇「魔弾の射手」序曲 J277
演奏：長野県高等学校選抜オーケストラ

ブラームス：ヴァイオリンとチェロのための
二重協奏曲 イ短調 作品102
(独奏：ビルギット・コーラ、ベンツェ・テムシュヴァリ)

ベートーヴェン
交響曲第6番 へ長調 作品68

田園

管弦楽
長野フィルハーモニー管弦楽団

指揮
ゲオルク・マルク
Georg MARK

ヴァイオリン
ヘルムート・ラッキング
Helmut LACKINGER

ヴァイオリン
ビルギット・コーラ
Birgit KOLAR

ヴィオラ
パウル・ラベック
Paul RABECK

チェロ
ベンツェ・テムシュヴァリ
Bence TEMESVÁRI

クラリネット
ルパート・ファンクハウザー
Rupert FANKHAUSER

2026. 9/21 月・祝 開演/14:00
開場/13:00

会場/ホクト文化ホール 大ホール

チケット料金/ 一般：1,500円 高校生以下：500円

プレイガイド/ ホクト文化ホール窓口
<https://p-ticket.jp/naganobunka>

問い合わせ先/ ホクト文化ホール TEL. 026-226-0008



Profile 出演者プロフィール



指揮
ゲオルク・マルク
Georg MARK, Conductor

ザルツブルク出身。ウィーン市立音楽院にて指揮とヴァイオリンを専攻し、同時にウィーン大学にて音楽学、哲学と心理学を学ぶ。世界各国にて指揮活動を行い、これまでに読売日本交響楽団、ブラハ放送交響楽団、ウィーン室内管弦楽団等と共演。1991年から2006年まで、モスクワ放送局チャイコフスキー交響楽団の第一客演指揮者を務めた。ウィーン音楽院大学指揮専攻科教授として教育活動にも従事し、現代の演奏技法とウィーンの伝統との融合を目指している。この姉妹提携事業には1998年から参加し2004年の第九演奏会でも指揮者を務めた。



ヴァイオリン
ヘルムート・ラッキング
Helmut LACKINGER, Violin

1961年ウィーンに生まれる。10歳よりヴァイオリンを学ぶ。ウィーン市立音楽院にてフロリアン・ツヴァイアウアー教授(ウィーン交響楽団コンサートマスター)、アルフレッド・シュター教授(ウィーン・フィル)に師事する。1988年からウィーン交響楽団の団員として活躍中。また、ウィーン・コンチェルトフェライン室内管弦楽団やウィーン・ブラムス四重奏団、ウィーン・シンフォニア・シュランメルなどの室内楽分野で活躍しており、国内外のコンサートツアーで大きな成功をおさめている。



チェロ
ベンツェ・テメシュヴァリ
Bence TEMESVÁRI, Violincello

1999年ブダペスト生まれ。6歳でチェロを始める。2015年よりウィーン音楽・舞台芸術大学でロベルト・ナギー教授、ペーター・ソモダリ教授、イシュトヴァーン・ヴァールダイ教授に師事。2018年にはハンガリーのダヴィッド・ボッパ・コンクールで第1位、スロヴァキアの「Talents for Europe」で2018年に第2位、2019年にグランプリ、2019年にはチェコ共和国のマラー・コンクールで第1位を受賞している。2020年、ウィーンで開催された「ダヌビア・タレント国際コンクール」で優勝、トレヴィーゾ国際コンクールで優勝。2021年にはブルガリアのアレグラ国際コンクールで第3位、2023年にはウィーンのカネレスコンクールで第1位を獲得した。2021年にはウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のアカデミーで2年間の奨学金を獲得。現在は、ウィーン交響楽団第2首席チェロ奏者を務める。



ヴァイオリン
ビルギット・コーラ
Birgit KOLAR, Violin

オーストリアのヴァイトホーフェン/イブス出身。ウィーン国立音楽大学にてライナー・キュッヒル、イエラ・シュビトコヴァの両氏に師事。1991年メニューイン国際コンクール入賞。ソリストおよび室内楽奏者として、ヨーロッパ各国、南米、日本などで演奏活動を行う。1999年から2008年、バイエルン放送交響楽団のメンバーと共にミュンヘン弦楽四重奏団を設立し、第1ヴァイオリン奏者を務める。2008年にはウィーン・フィルハーモニー管弦楽団とウィーン交響楽団のメンバーで構成されたウィーン・セラフィン・クアルテットを設立。これまでにブルックナー管弦楽団、ウィーン交響楽団、バイエルン放送交響楽団他、各地のオーケストラのコンサートミストレスを務める。現在の使用楽器は、オーストリア・ナショナル銀行所蔵のクレモナ製カルロ・ベルゴンツィ(1723年製)。



ヴィオラ
パウル・ラベック
Paul RABECK, Viola

1984年ウィーン生まれ。5歳でヴァイオリンのレッスンを始める。ウィーン音楽高校を経て、ヴァイオリンをミヒャエル・シュニツラー、ヴェロニカ・ゴットフリート、クララ・フィーター、ペーター・シュマイヤーに師事。2005年にヴィオラに転向し、2011年に演奏家コースを優秀な成績で修了。また、ブルーノ・ユランナ、タベア・ツィンマーマン、ルボミール・マリ、オグニアン・スタンチュフ、モートン・カールセンのマスタークラスを数多く受講して研鑽を深め、室内楽だけでなく、レコーディングやクロスオーバー・プロジェクトにも頻りに参加して音楽の幅を広げている。2009年よりORFウィーン放送交響楽団オーケストラ・アカデミーに所属し、2011年3月よりヴィオラ奏者となる。2017年10月よりウィーン交響楽団ヴィオラ奏者。



クラリネット
ルパート・ファンクハウザー
Rupert FANKHAUSER, Clarinet

ウィーン国立音楽大学クラリネット科准教授。ウィーン国立音楽大学、カラヤンアカデミーで学ぶ。グスタフ・マラー・ユース・オーケストラのソロクラリネット奏者、クラゲンフルト市立劇場管弦楽団のソロクラリネット奏者、南アフリカ・ケープタウン交響楽団のソロクラリネット奏者などを務め、2012年以降は、アーノンクール指揮ウィーン・コンチェントゥス・ムジクス、ウィーン楽友協会、ザルツブルク音楽祭など、オリジナル楽器による数多くのコンサートやレコーディングも行っている。